

アツチチアツチ！冬至の日に 無病息災を祈る火涉水神事

——桜川市・加波山三枝神社本宮

日に日に日照時間が短くなり、寒さも一段と厳しくなる季節となりました。一年で一番日が短くなる日が12月22日ごろで、いわゆる「冬至」です。二十四節季のひとつで、この日を境に、晷の目の長さだけ日が長くなるといわれ、「一陽来復」のおめでたい日です。

この日はカボチャやこんにやくを食べ、柚子湯に入るといふ習慣が日本では定着していますが、世界的にも冬至を祝う行事は広まっており、キリスト教のクリスマスも冬至のお祭りだったという説もあるようです。

冬至のカボチャは「南瓜」と書きます。それは最も太陽の光が弱まる冬至に、カンボジアから伝えられたというカボチャを食することで、陰から陽へと明るさを取り戻そうと考えたのでしょうか。



そのような背景から太陽の光を活力としたいと、東日本各地では火祭りを行う神社が多数あります。

本県では桜川市の加波山神社本宮で冬至の日に、「火涉水」の神事が行われます。境内で薪を燃やし、炭火になったところを修業を積んだ先達と呼ばれる行者さんの後に参拝者の方々が裸足で歩き、無病息災を祈るのです。

ことの始まりは室町時代初期の応永二(1395)年といわれています。加波山の修験道場の再興にあたり行われて、六百年以上前から延々と続く伝統行事です。

このような火祭りは自らの身を傷つけないとは限りませんが、しかし、信心深い方々は火傷をすることもなく、火涉水を果たします。先人たちの心の清らかさを知ることのできる神事です。

〈参考文献〉茨城の年中行事(藤田稔著)ほか



【アクセス】JR水戸線岩瀬駅からタクシーで20分。
北関東自動車道・桜川筑西ICから車で20分。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>